平成26年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	日本建築史(History of Japanese Architecture)			**授業コード**	C141251
担当教員名	西村　謙司			**科目ナンバリングコード**	L20407
配当学年	2	**開講期**	後期		
必修・選択区分	建築コース （選択必修） インテリアデザインコース （選択） 環境・地域創生コース （選択）	**単位数**	2		
履修上の注意または履修条件	建築設計を志している人は必ず履修すること。建築を学ぶ意欲があることが履修条件です。				
受講心得	講義の内容をその時間内に理解するよう心がけること。授業中の私語は他の受講者の迷惑になるため厳禁。目と手だけで受講するのではなく、目と手と耳、その他の感性を縦横に発揮して受講すること。				
教科書	教科書は用いず、毎回の配付資料によって授業を進めます。				
参考文献及び指定図書	適宜紹介します。				
関連科目	世界建築史、モダンデザインなど				

授業の目的	日本において発見された建築空間の魅力を時間軸に沿って説明します。歴史的現代において、伝統に根ざした建築を構築する技術の習得をめざします。講義は多数の建築写真、建築図面を用いて、ビジュアルに行います。各自の設計手法確立の一助となることを期待します。
授業の概要	日本に建てられてきた建築の歴史を体系的に理解する。

○授業計画	
学修内容	**学修課題(予習・復習)**
第 1 週 ： 日本の現代建築　1 日本人建築家の世界で活躍する様子を紹介します。	配布プリントの読解 関連分野に関する図書閲覧
第 2 週 ： 日本の現代建築　2 現代の日本的な建築の事例を紹介します。	配布プリントの読解 関連分野に関する図書閲覧
第 3 週 ： 日本の現代建築　3 日本的特質に着眼し、現代日本建築の動向を紹介します。	配布プリントの読解 関連分野に関する図書閲覧
第 4 週 ： 日本の現代建築　4 日本的特質に着眼し、現代日本建築の動向を紹介します。	配布プリントの読解 関連分野に関する図書閲覧
第 5 週 ： 磯崎新の建築 世界で活躍する大分出身の建築家磯崎新の建築世界を紹介します。	配布プリントの読解 関連分野に関する図書閲覧
第 6 週 ： 丹下健三の建築 現代日本の建築の基礎をつくりあげた建築家の世界観を垣間見ます。	配布プリントの読解 関連分野に関する図書閲覧
第 7 週 ： 木構造の仕組み 伝統工法に着眼し、日本建築の基礎構造となる木構造の仕組みについて学びます。	配布プリントの読解 関連分野に関する図書閲覧
第 8 週 ： 日本建築史概要	

日本建築史を学ぶ上で必要になる基礎知識の習得を試みます。	配布プリントの読解 関連分野に関する図書閲覧
第 9 週 : 神社建築　1 日本古代の神社建築について説明します。	配布プリントの読解 関連分野に関する図書閲覧
第10週 : 神社建築　2 日本の神社建築の歴史について説明します。	配布プリントの読解 関連分野に関する図書閲覧
第11週 : 奈良の仏堂 奈良時代に建てられた仏教建築について説明します。	配布プリントの読解 関連分野に関する図書閲覧
第12週 : 平安の仏堂 平安時代に建てられた仏教建築について説明します。	配布プリントの読解 関連分野に関する図書閲覧
第13週 : 中世仏堂　1 中世から近世にかけて建てられた仏教建築について説明します。	配布プリントの読解 関連分野に関する図書閲覧
第14週 : 中世仏堂　2 中世から近世にかけて建てられた仏教建築について説明します。	配布プリントの読解 関連分野に関する図書閲覧
第15週 : 近世の日本建築 近世に建てられた日本の建築について説明します。	配布プリントの読解 関連分野に関する図書閲覧

授業の運営方法	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	配布プリントはワークシート形式になっています。授業中に示された内容に沿ってブランクに適切な用語を記してください。それによって専門用語を習得します。
【知識・理解】	日本において発見された建築空間を体系的に理解する。 歴史的現代において、伝統に根ざした建築を構築する技術の習得をめざす。
【技能・表現・コミュニケーション】	関心のある日本建築を検討し、絵と図と言葉にて表現する。
【思考・判断・創造】	歴史的に形成されてきた宗教建築の意義を理解する。

○成績評価基準（合計100点）			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等（テスト）	レポート・作品等（提出物）	発表・その他（無形成果）	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		10点	10点	
【知識・理解】 ※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。		30点		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		30点		
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		20点		

（「人間力」について）

※以上の観点に、「こころの力」（自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力）と「職業能力」（職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力）を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等（提出物）	原則として毎回、配布したワークシートの提出を求めます。また、中間、期末等にレポート課題の提出を求めます。達成水準の目安は以下の通りです。 ［Sレベル］単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 ［Aレベル］単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 ［Bレベル］単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 ［Cレベル］単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。
発表・その他（無形成果）	授業の中で、適宜質問をします。優れた解答をした者は、記録して加点することがあります。